

平成30年3月 日

日本ジオパーク委員会 様

佐渡ジオパーク推進協議会  
会長 三浦 基裕

## 第32回日本ジオパーク委員会審査結果報告書に対する回答書

2018年1月24日付 日本ジオパーク委員会による審査結果報告書において、認定条件として提示いただいた今後の課題や改善点への対応について、下記のとおり回答いたします。

## 記

## ○総評関連事項

地域住民を対象とした教育・普及活動の結果、地域住民のジオサイト保全意識の高揚や、地域間の新しいつながりと交流の増加、新たな商品開発などについての取り組みについては一定の評価をいただきました。

佐渡島では、ジオパーク、世界文化遺産登録への取り組み、世界農業遺産という、3つの国連プログラムを進めてはいますが、これらの関わりについての整理が不十分であり、今後それぞれの関わりを明確にし、佐渡独自の魅力あるジオパークづくりを目指します。

ストーリーについては、ご指摘いただいたことを念頭に置き、来訪者が各サイトにおいて実感及び理解しやすいジオストーリーを再構築するとともに、佐渡ジオパーク全体の情報が得られる拠点施設の再整備も進めます。

## ○緊急に解決すべき課題（おおむね1年以内）

## 1-1 ジオパーク、世界文化遺産、世界農業遺産の類似点と相違点の理解

現状3つのプログラムはそれぞれの目的のもと個別に事業を実施しており、連携は図られているとはいえません。まずはそれぞれのプログラムの類似点・相違点について整理するべく、平成30年2月に市役所内の実務担当者会議を開催しました。本会議は今後定期的に開催し、それぞれの目的の位置づけ、役割分担について協議していきます。そしてこれを市役所の中での横断的なプロジェクトに発展させ、情報共有しながら関連性の整理を進めていくとともに、協議会の一員として活動を支援する形で関わっていきます。

また、推進協議会においても行政での取り組みを基に、3つのプログラムの関わりについて協議会内の意思統一を図っていきます。

## 1-2 ジオストーリーの再構築に基づく世界文化遺産、世界農業遺産とジオパークとの関わりの明確化

「項目1」の取り組みを通して、世界文化遺産及び世界農業遺産とジオパークとの関わりを整理し明確にした上で、来島者等にわかりやすい言葉を用いてストーリーを再構築します。完成したストーリーを核にして、地域住民や観光関係団体等に対する3つのプログラムの関連性や必然性の周知を行います。

## 2 サイトの再設定

まず当面はストーリー性があり、より見どころとしてのポイントの高い箇所（例えば現在観光パンフレット等に掲載されている旧ジオポイントに該当する箇所）をサイトとして設定し、活用を図っていきます。

並行して佐渡全体を語るテーマ、ストーリーを構築し、それを体現できるサイトの再設定を行います。また、選定されたサイトが島内で広く認識され、推進協議会に限らず、様々な個人、団体による活用が図られている状態を目指します。具体的な取り組みとしては、既に実施した予備調査の段階で選出されている旧ジオポイントを整理し、再選定を至急行うことと、ストーリー構築のための地域調査、文献調査を実施します。

## 3 「佐渡ジオパーク」という文字の視認性の向上

ジオパークという文字の視認性の向上は、観光客だけでなく地域住民に佐渡島がジオパークに認定されていることを認識させる上でも重要であることから、交通機関（汽船、バス、タクシー、レンタカー）、宿泊・観光施設などへ、佐渡ジオパーク活動推進のためのポスターやのぼり旗等の設置について協力要請を行っていきます。また、公共施設等においてもイベント開催時にアピールしてもらうよう、県や市のイベント担当課への協力を要請します。

加えて3つのプログラムの取り組みを進める中で、これらが一体となったのぼり旗やグッズ等の商品開発に向け、担当者会議を開催して検討を進め、平成31年度から商品化に取り組み、随時設置していきます。

## 4 化石や鉱物などを含む地層の保護・保全の方針の決定

サイトを構成する希少な岩石、鉱物、化石は、法的規制の有無に関わらず徹底した保護活動が必要になります。このような活動を実効のあるものにするため、文化財ごとに策定された保存管理計画や保存活用計画の中で定められている保存方針に準じて、サイトの保護・保全方針を策定します。この方針に基づきサイトの保護・保全を行うものとし、実施にあたっては、ジオパーク推進協議会と文化財担当部署さらに地域住民とが連携し、サイト等の現況を調査し、情報を常に共有していきます。

破損が生じた場合、あるいはその危険性が予測される場合には、改修や未然防止策について県及び市の担当部署との連絡体制を整えておくよう調整を図ります。さらに、地域住民へのサイトの学術的価値の説明や、保護活動への協力依頼、見学マナーの周知をするなど、啓発的な活動も併せて実施します。

## ○今後2年間で解決すべき課題

### 1 協議会全体の実質的な活動の活性化

現状ほぼ事務局（ジオパーク推進室）だけで活動している状態ですが、各委員が積極的に他のジオパークの視察やJGN全国大会等に参加し、交流を行うことで自らの活動に活かしていきます。さらに協議会内においては、それぞれの部会がより自発的な活動を行い横の連携を図ることにより、新たなサイトの設定・活用方法や協働による活動の創出を図るとともに、この部会活動を運営委員会・総会の場で情報共有し、協議会全体で活動することについての共通認識の醸成にも取り組みます。

### 2 専門的すぎる看板や冊子媒体類の改善

既存の看板類の内容を調査し、地形・地質に偏った、あるいは内容が難しいものについては、サイトの再設定に合わせて、ジオパークガイド協会等の意見も参考にしながら、上記1の取組みとも関連させながら、看板類の改修計画（3プログラム共通規格の設定も視野に入れたものを想定）を平成30年度中に作成し、多様な世代にわかりやすく伝わるような看板等への計画的な更新を図ります。

### 3 佐渡博物館を含む拠点施設の再整備と系統的な情報発信の実施

平成30年度中にジオパーク推進室（推進協議会）の事務室を佐渡博物館内に移設する方向で検討を進めます。

さらに佐渡博物館で既に事務所を構えている佐渡学センターとジオパーク推進室（推進協議会）が連携して、ジオパークを含む3つのプログラムに関する展示、インフォメーション機能の充実を目指すとともに、島内他の博物館・資料館等に共通の展示も充実させながら、観光導線を意識した情報発信に取り組みます。

### 4 観光導線の構築

サイトの再設定に合わせて、サイト周辺における道標や看板の整備（既存のもの更新及び新設）を進めるべく看板等設置計画（仮称）を作成し、計画的な整備を行います。

また、来島者が港に降りたら観光案内所に誘導し、そこでジオツアーの提案ができ、そして設定したルートを迷うことなく巡れる仕組みづくりを観光関係者やジオガイド等と連携しながら進めていきます。

## 【添付資料】

○アクションプラン（実施計画）